

B—55 接着心布に関する研究
織物の種類と接着力について

広島大 ○大池 久子
坂西 栄子

1 接着心布の接着力の大小が、織物の性質、特に、織物の組織・織糸の種類ならびに粗密などどのような関係があるかを知るために、薄地コートofラペル・エリに用いることを実際の場合の目標として、フィラメント糸・スパン糸系の合織糸・繊維素系糸の織糸密度・組織などを異にする6種類の織物を用いて実験を行なった。

2. 接着心布の表面のバインダーの M. P. を基準として、アイロンの温度をサーミスター温度計により $125 \pm 6^\circ\text{C}$ ・ $145 \pm 6^\circ\text{C}$ 、アイロンの加圧時間を 20・40・60 sec. として、試布 $5 \times 10\text{cm}$ の大きさのものに心布を接着し、洗浄試験機により 5～10回洗たくをくり返して剝離状況により接着力の大小を推定するとともに、顕微鏡観察によって織物の表面の性質と接着の状態ならびに剝離する過程などを調べ、つぎのようなことが知らされた。

3. (1)スパン糸による織物は、フィラメント糸による織物よりも接着力が大である。(2)織糸は、合織糸のみよりも繊維素系繊維との混紡糸によるものが接着力がよい。また、織物は、織糸密度の大小よりも織物表面の凹凸の多少、繊維そのものの性質による影響が大きい。(3)アイロンの温度は、 $145 \pm 6^\circ\text{C}$ 、加圧時間は、20 sec. が接着力・作業能率の点から好ましい。